

【問 1】

表を見て、問題に答えなさい。

100gの水に溶ける食塩の限量

表 1

水温(℃)	0	20	40	60	80	100
食塩(g)	35.5	36	36.5	37	38	39

100gの水に溶けるホウ酸の限量

表 2

水温(℃)	0	20	40	60	80	100
ホウ酸(g)	3	5	9	15	24	38

(1) 60℃で 200 g の水に食塩は何 g 溶けますか。 []

(2) (1)の食塩水を加熱して100℃に上げると、
食塩はさらに何 g 溶かすことができますか。 []

(3) 80℃の水100 g にホウ酸を24 g 溶かした後、温度を0℃まで下げました。
溶けきれなくなって出てきたホウ酸は何 g ですか。 []

【問 2】

次の①～③のグラフは、中京工業地帯、阪神工業地帯、京浜工業地帯のいずれかの工業生産額と工業の種類別の生産額割合を示しています。

①～③の工業地帯名を答えなさい。

中京工業地帯…日本全体の工業生産額の約 18%を占める日本一の工業地帯です。

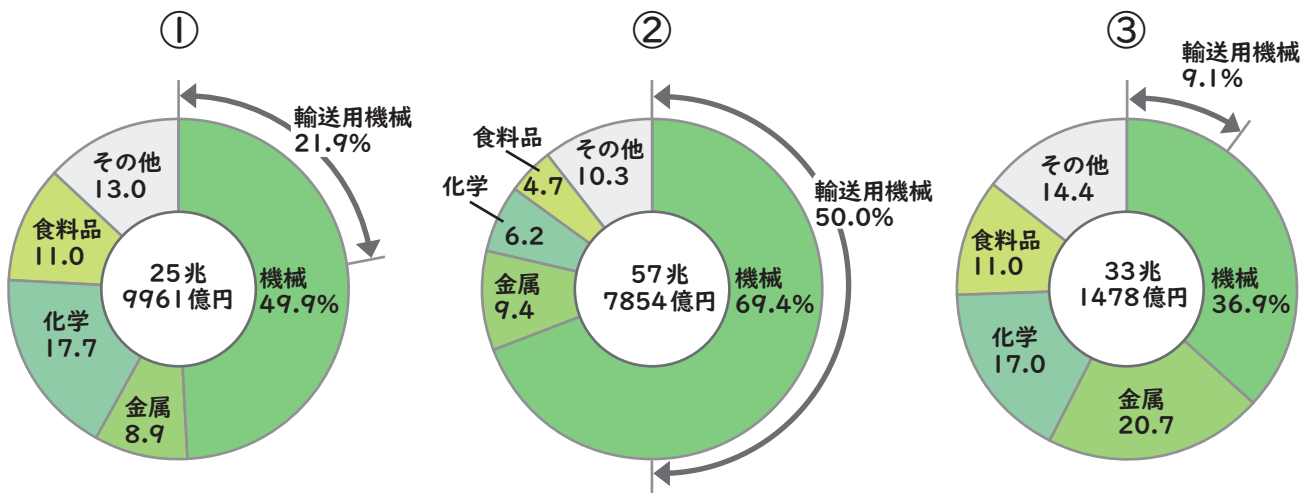
自動車工業を中心に機械工業が全体の約 70%を占めています。

阪神工業地帯…日本全体の工業生産額の約 10%を占めている工業地帯です。

部品や日用品をつくる中小工場が多いことが特徴です。

京浜工業地帯…日本全体の工業生産額の約 8%を占めている工業地帯です。

東京湾沿いには、鉄鋼業や石油化学工業の大工場が見られます。



① []

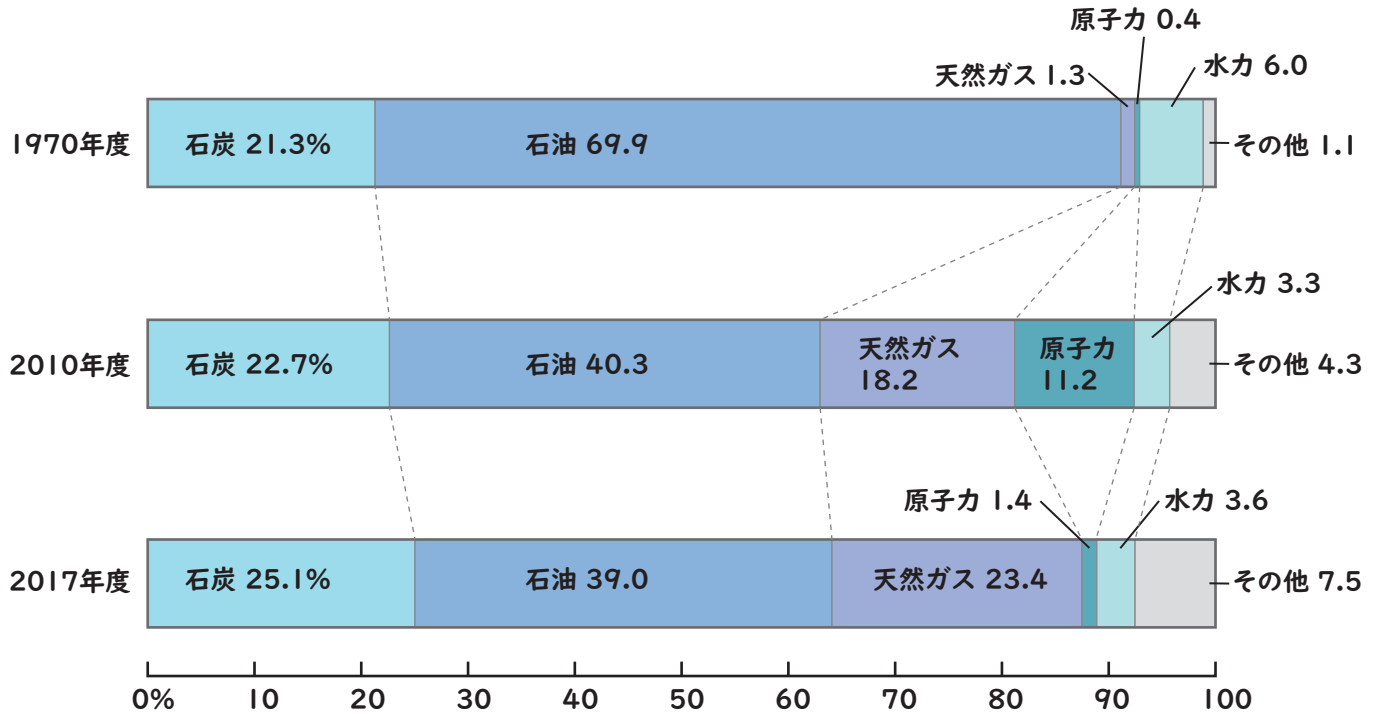
② []

③ []

【問 3】

次のグラフは日本のエネルギー消費割合を表しています。

グラフから読み取れることとして誤っているものを1つ選び記号で答えなさい。



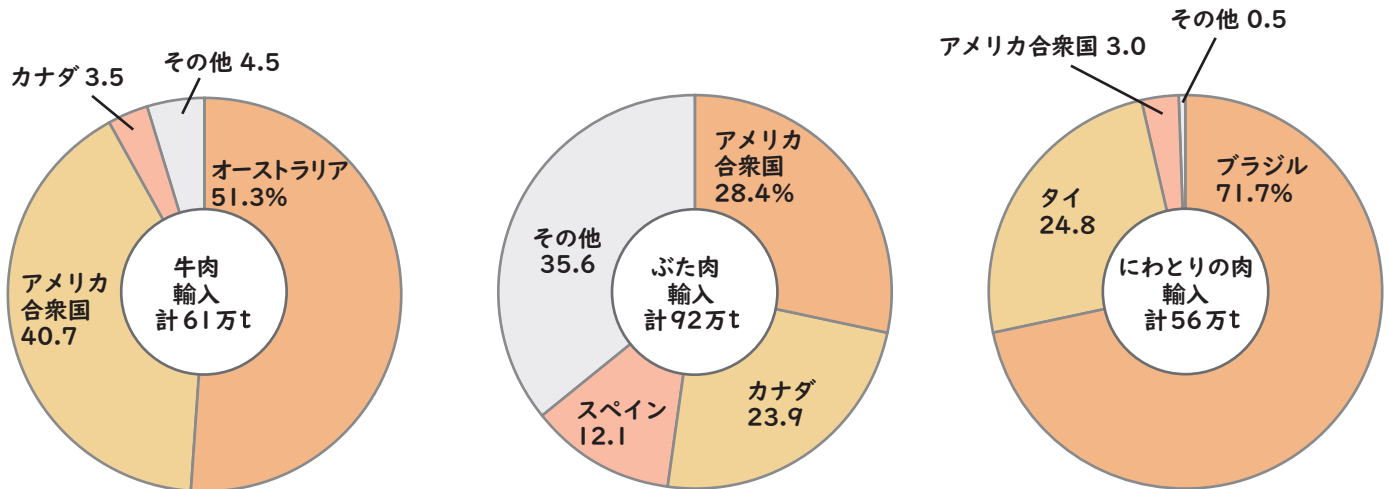
- ア 1970年ころは、石油がエネルギー資源の中心となっていた。
- イ 石油のエネルギー消費割合は年々増加し続けている。
- ウ 2011年の福島第一原子力発電所の事故の影響で原子力の消費割合は減少した。
- エ 1970年、2010年、2017年のどの年度でも石炭、石油、天然ガスの占める割合の合計は全体の8割を超えている。

[]

【問 4】

次のグラフは肉類の輸入先を表したグラフです。

このグラフの説明として誤っているものをア～エから1つ選び記号で答えなさい。

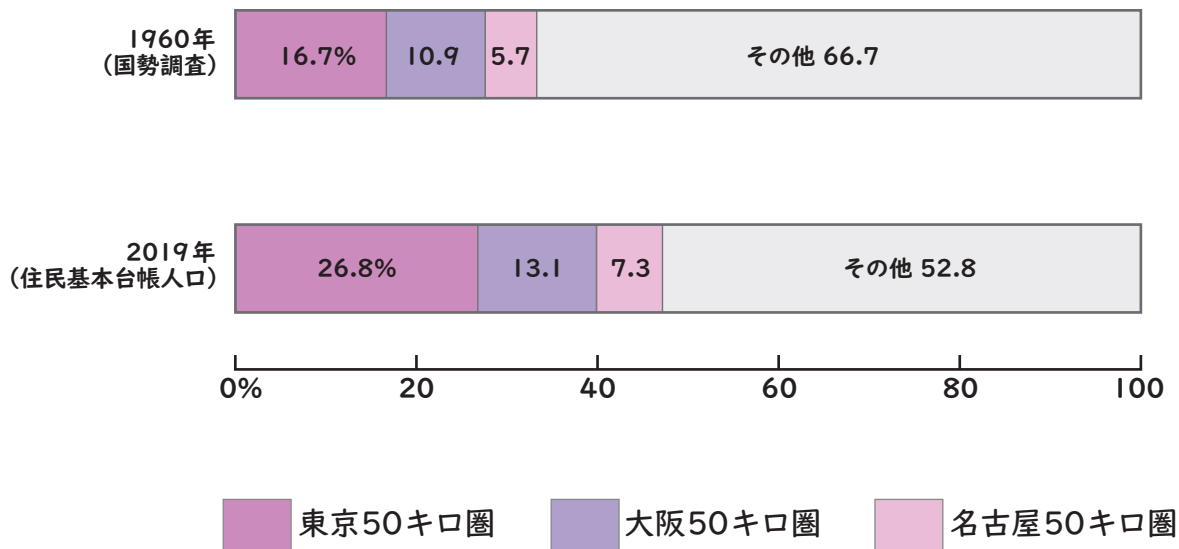


- ア 牛肉輸入総量の9割以上をオーストラリアとアメリカ合衆国の2国で占めている。
- イ 豚肉の輸入量は牛肉、にわたりの肉に比べ多い。
- ウ にわたりの肉の輸入量の約7割はブラジルからである。
- エ どの肉類の輸入量もアメリカ合衆国は2位以内に入っている。

[]

【問 5】

次のグラフは全国に占める 3 大都市 50 キロ圏の人口の割合を示しています。
グラフ説明として誤っているものをア～ウから 1 つ選び記号で答えなさい。



- ア 2019年には国民のおよそ半分は 3 大都市圏に住んでいる。
イ 東京 50 キロ圏は特に人口が多く全国の 3 分の 1 を超える国民が住んでいる。
ウ 3 大都市圏はどれも全国に占める人口の割合が増加している。

[]

※社会の資料は日本のすがた2020から引用